

# 上尾市市制施行60周年記念事業 スティールパンライブ

STEEL PAN ORCHESTRA  
PAN NOTE  
MAGIC

2018年8月18日、上尾市コミュニティセンターで「スティールパンライブ」を開催しました！  
「スティールパン」とはカリブ海発祥のドラム缶で出来た音階打楽器。  
上尾市出身の小針彩菜さんの所属するスティールパンオーケストラ「PAN NOTE MAGIC」の上尾市初公演です！

「世界で最も人の心を癒す楽器」と言われるスティールパンの美しい音色を楽しもうと、チケットは早々に完売した公演でした。





小針さんは洗足音楽大学打楽器学科をマリンバで首席卒業。  
大学在学時にスティールパンに出会い、その後、PAN NOTE MAGICに加入しました。  
個人としても、2015年、2016年、2017年にはスティールパンの本場トリニダード・トバゴに渡り、現地のバンドのメンバーとして、世界最大のスティールパンのコンテストに参加し、2度の優勝を果たしています。



今回はPAN NOTE MAGICとして 初の上尾市公演ということで、メンバー全員の気合も十分！

陽気なカリビアンミュージックから、ディズニー、クラシック、日本の曲まで、どんなジャンルの曲でも、スティールパンの独特な響きと、PAN NOTE MAGICの研ぎ澄まされた高い音楽性で、満員の観客を魅了していました。





後半のスタートはスティーロパン誕生の歴史をコント仕立てで紹介。  
竹の棒を使って音を出すタンブー・バンブーのコーナーでは、お客様にステージに上がっていただき、リンボーダンスをして観客を沸かせました。

スティーロパンを演奏しながら、客席のねり歩きもしました。見慣れないスティーロパンを少し身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

客席からは弾いている手元が見えないスティーロパン。「実は弾いていないんじゃないか」「CDを流しているんじゃないか」と思われてしまうこともあるそうです。そのため今回は特別に、ステージ後方のスクリーンに、後ろからのショットを映写してみました。

終盤では会場全員でタオルを回しての大盛り上がり。演奏者と観客が一体となり、コミセンのホールが見たことのないような熱狂的な空間となりました。

本編最後の曲、“I Love Panyard♡”は小針さん作曲のナンバー。Panyardとは、トリニダード・トバゴのスティールパンの練習場のこと。小針さんはPanyardに行くときとても心が落ち着いたそうです。それと同様、上尾市に来るときにもいつも心がとても落ち着くそうです。

生まれ育ったの上尾市への愛と、1年以上前から温めてきたこの公演への思いを重ね、万感の想いを込めた熱い演奏に、観客は惜しみない拍手を送りました。

小針さんによると、サウンドも、音の勢いも良く、PAN NOTE MAGICの中でも、近年稀に見る躍動したステージだったそうですよ。



小針さんはいつもメンバーの皆さんに上尾の自慢をしてるそうです。今回の公演を通して、メンバーの皆さんも上尾の皆さんのあたたかさに触れ、上尾が大好きになってくれたそうですよ。PAN NOTE MAGICの皆さん、ぜひまた上尾に演奏しに来てくださいね！

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました！